

# くすのきだより



令和4年3月4日  
来迎寺小学校  
臨時号

## 【令和3年度学校評価アンケート集計と分析】

集計作業の効率化とペーパーレス化のため、今年度からスマートフォン等による学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

年度当初にお知らせした教育目標や「グランドデザイン」の達成状況を、児童・保護者・教員それぞれがどのように評価しているかを確認し、次年度以降の教育活動にフィードバックさせていきます。

なお、分析するに当たり、各質問項目について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を肯定的評価とし、90%以上の場合、教育目標や「グランドデザイン」でお示ししたことが概ね達成できたと考えました。逆に、肯定的評価が90%未満の項目を次年度の課題と考えました。裏面に集計結果等を記載しました。

### ○「学校」(肯定的評価—児童：95% 保護者：94% 教員：94%)

自己肯定感や自己有用感の獲得を支援することや、「この仲間だから分かった」「成長できた」と感じられる学習・生活の場を実現することを通して、「子どもが通いたい学校」づくりを目指しています。児童、保護者の肯定的評価は昨年度と同じ、教員は3%低くなったものの、三者とも90%台半ばと高い評価でした。今後も、児童一人一人を大切に学級・学年経営をし、仲間（絆）づくりを応援していきます。

### ○「授業」(肯定的評価—児童：90% 保護者：91% 教員：97%)

一昨年度から、課題解決的な学習過程を通して「学ぶ楽しさ」を、学びのユニバーサルデザイン化を通して、「分かるうれしさ」を実感できる授業づくりに取り組んでいます。

昨年度に比べ、児童の肯定的評価が5%ほど高まりました。三者とも90%以上と高い評価となりました。

今年度はタブレットの有効活用によって、個別最適化した学びが実現しやすくなったため、「分かるうれしさ」を実感しやすくなったように考えています。また、児童が学習内容に対して切実感を強くもち、意欲的に追究を進めたいくなる課題解決的な学習の設定することで、「学ぶ楽しさ」を実感しやすくなったように考えています。



【タブレットで意見交換】

### ▲「家庭学習」(肯定的評価—児童：86% 保護者：86% 教員：88%)

肯定的評価は三者において90%に届きませんでした。今後はタブレットの持ち帰りも日常化していくと思います。個々の学習状況に応じた家庭学習が、充実し易くなるかと考えています。ただ、児童の帰宅後の生活環境は様々であり、発達段階や習熟度は、学年や個々によって異なります。家庭学習の在り方について、今後も保護者と情報を共有しながら、学校全体で検討していきたいと思っています。

### ●「あいさつ」(肯定的評価—児童：82% 保護者：92% 教員：94%)

保護者と教員が両者とも肯定的評価が90%を超えたのに対し、児童は3%評価が上がったものの90%に届きませんでした。校舎内を歩いていると6年生を中心に挨拶のできる子が増えてきたように思いますが、登校時での挨拶の少なさや小ささが、立番や地域の方からしばしば寄せられます。挨拶は、よりよき人間関係の基本です。挨拶のよさを子どもたちが実感できる手立てをさらに見直し、改善していく必要を感じています。また、挨拶は学校だけが指導するものではありません。挨拶の溢れる地域では犯罪が起きないとも言われています。家庭、地域でも引き続き声をかけていた

できれば幸いです。

●「命・人権」(肯定的評価—児童：94% 保護者：89% 教員：97%)

「いじめ」は「存在しない」ことが最良ですが、成長の途中である児童の社会においては、悪意の有無に関わらず、「いじめ」は起こらないとは言い切れません。大切なのは、早期認知と学校としての組織的対応の徹底です。本校の「いじめ防止対策基本方針」を改訂し、新たに「いじめ対策ナビ」を作成し、教員間の共通認識を図り、保護者の皆様にもホームページでも紹介しています。引き続き、本校のいじめ対策にご理解、ご協力をお願いし、保護者の皆様への周知を図っていきたいと思います。



【弁護士による人権学習】

●「体力づくり」(肯定的評価—児童：86% 保護者：91% 教員：88%)

児童と教師の肯定的評価が90%未満となりました。これには、昨年度からの新型コロナウイルスの感染予防で運動や遊び方に制限が加わったところに熱中症対策が重なったことも影響したと思われます。この状況は、全国的にも見られます。来年度に向けて、これらの問題の改善を図りながら、運動や体力づくりの大切さや外遊びの楽しさを実感できるような環境整備に努めていきます。

○「絆づくり」(肯定的評価—児童：96% 保護者：93% 教員：97%)

昨年度とほぼ同等で、三者とも肯定的評価が90%を優に超えました。互いに認め合う中での自己肯定感や自己有用感の獲得は、学習(項目2)や「登校への意欲」(項目1)とも大きくかかわりがあり、豊かな学校生活の中核をなす要素です。今後もいっそう仲間(絆)作りを大切にした学校・学年・学級経営をしていきます。

○「防犯・防災」(肯定的評価—児童：97% 保護者：95% 教員：97%)

本校では、児童が問題解決に向けて主体的に考えたり論議したりする防災教室と、そこから生まれた知見を確認する場となる避難訓練をワンセットとする「行動する防災教育」を計画的に実践しています。具体的には、9月には、防災教室として各クラスで大きな地震が起きたらどのように動いたらよいかについて話し合いが行われ、これを受けて、通行不可能箇所の設定や負傷者や行方不明者がいるといったリアリティのある状況を設定した避難訓練を行いました。このようにすることで、児童の防災への関心と主体的な取り組みを担保することができると考えています。

○「新型コロナウイルス対応」(肯定的評価—児童：92% 保護者：99% 教員：94%)

感染予防については、国、県、市からの指示に従い、学校生活でのあらゆる場面で、児童、教員に周知徹底しています。特に教室内の換気や三密回避の徹底等に留意しております。児童の帰宅後、休日の感染予防にも十分ご留意ください。

●「保護者・地域との連携」(肯定的評価—保護者：88% 教員：100%)

コロナ禍の中、教員は感染予防を常に念頭に置き、制限のある中で保護者・地域との連携に努めています。しかし、昨年度と同様、例年行っていた行事の中止、延期が相次ぎました。保護者・地域の方と顔を合わせる機会が少なくなっていることもあってか、昨年度より保護者の肯定的評価が6%低くなりました。コロナ禍を一つの契機として「新しい時代に即した保護者・地域との連携」を今後模索していきたいと思います。

○「情報発信」(肯定的評価—保護者：94%)

昨年度より学校だよりと学年だよりを合併して発行するようにして、少しでも児童支援に教員のエネルギーを注げるように図りました。ホームページも内容の充実にも力を入れたり、新たにスマートフォン対応のバージョンに変更したりしました。必要などころは改善しながら、今後も適切に情報発信を行っていきます。